

# 私の博物誌

題字 石川進

## 第十五回 「虫」

虫の居処、腹の虫、疳の虫など、はつきりとした形が理解できぬまま、虫をかかえて生き、そして死んでゆくのは人間の運命なのである。私は永いことそれ等の虫を実見せねばと念じつつも、未だにそのチャンスには恵まれず残念に思っている。

二世紀になんなんとする七代に亘る長い職人稼業の中で、採っては喰い、採っては喰いのさやかな生活を続ける道すがら、様々な人々との出会いや別れがあった。

疳症、冷静、好色、純真、狡猾、正直、尊大、柔軟、博識、剛直、酒好きなど、単一なものではなく、複合し重層した複雑なものが、人間らしいのだ。

春秋に富んだ、沢山の人々との交わりと別れの中、永遠の別れに際しては、個々人の違いによる固有の虫を体内深く飼育し、死に際してはそれ等の虫を置き土産として必ず残すものと合点し、強度の眼鏡にかけ替えては、虫の行方を詳細に探したものの、ついにそれを見つけることはなかつた。

た。這い出たか、飛び出たか、いつの間にかの虫達は宿主を離れ、私は只の物体として横たわったままで、未だ分からないままに打ち過ぎていく。

戦後、やたらに呑まされたサントニンや、カイジンソウなどで退治出来るものではないことは、年を追うに従って少しずつ理解するようになった。

何故かは簡単で昔、駆虫剤を呑まされたにもかかわらず、威張ったり、落ち着きがなかったり、当節はやりの切れ易い者共が増殖し、浮足立って酒色に溺れたり、拝金主義に狂奔する。これはまさに私が見たいと切望する虫達が順調に育っている証左である。うと得心はするが、しかし未だ見えはしないのだ。

このような醜態は自らの器量を知ることなく、我欲を満たそうと焦心するあまり、それを餌とする虫が育つらしいのだ。「餓

鬼道」は、喰っても喰っても満たされることのない心をいうとか。己れ自身の人格をも低からしむることにもなる。

私自身、改めて他人が飼育する腹の虫の実見よりも、自分の中に棲む虫の在り様を、仔細に観察すべき局面に在ると思うようになって来た。

己れを知ることが至難なことだが、これを知れば、虫をなだめながら充足の中で生活出来るということになるという。

「虫の知らせ」もぜひ聞いてみたいと思っているのだが、これ又難しく、聞き耳をたててみるのだが、聲はおろか羽音さえ聞こえず、老眼鏡の奥に飛蚊症がチラチラと飛ぶだけなのは、何とも情けない次第だ。最近になり、頑固だった父の言葉を大切

に思うようになった。

曰く「蟹はな、自分の甲羅に似合った穴を掘って生活する。お前もそうしろ！」。「俺も蟹並みかよ」との呟きが口をついたものの、反感を持つことはなかった。

絶対なくしてはいけない虫がある。小さな虫だ。腹の底の奥の方に静かに横たわったままでいるだけの、一寸程の小さな虫だ。何の悪戯もしない。ごくたまに頭をもたげる程度で、後は静かにしている。耳を澄ますと、小さな呟きが消え消えだが聞こえるのだ。

更に耳を澄ますと、こんな風に聞こえる「一寸の虫にも五分の魂」「一寸の虫には一寸の魂」。



書いている人



石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員、書法探求顧問。



虎の門病院医師ネットワーク会員

人工透析施設

医療法人 **かもめクリニック**

理事長 金田 浩

かもめ・みなとみらいクリニック

横浜市西区みなとみらい3-6-3MMパークビル3F TEL.045-228-2212

かもめクリニック

いわき市草木台5-8 TEL.0246-28-1010

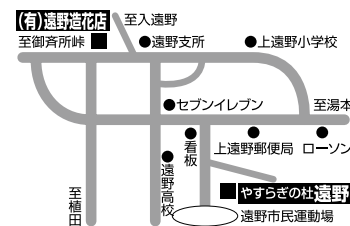
かもめ・大津港クリニック

北茨城市大津町北町字深田432-1 TEL.0293-46-0133

かもめ・日立クリニック

日立市東滑川町1丁目3186 TEL.0294-25-1531

故人を送る厳粛な儀式。祈る心を真心こめて  
やすらぎの杜遠野がお手伝い致します。



やすらぎの杜 遠野

〒972-0161いわき市遠野町上遠野字赤坂27-1  
TEL.0246-89-4777